DOPPELGÄNGER® 自転車　組立説明書

20100908FD

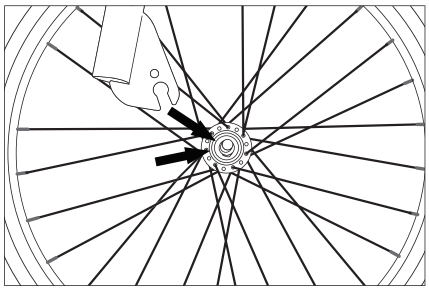
※本説明書のイラストは代表的なモデルの形状を示しています。そのため、お手元の自転車とは細部が異なる場合があります。
※使用上のご注意および、日常点検やブレーキ・変速機の調整については、別冊「取扱説明書」を参照してください。

1 まずは自転車を箱から取り出し、下記の一覧に従い、付属品を確認してください。万一不足があった場合には、「取扱説明書」記載の弊社連絡先までご連絡ください。

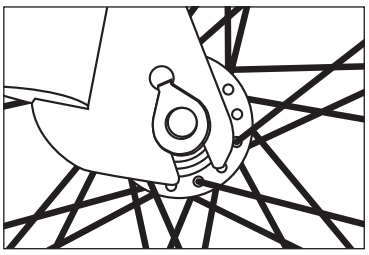
付属品：取扱説明書、組立説明書（本書）、簡易工具

2 前輪を取り付けます。フォーク先端の切り欠き左右に、ハブボルト（軸）左右がかみ合っていること、ハブボルトに取り付けられたワッシャーの爪とフォークの穴がかみ合うように取り付けられていること (図 2）を確認してください。タイヤの向きはタイヤの矢印の指す方向に進行方向を合わせてください。ハブボルトに取り付けられたナットとワッシャーはあらかじめ外しておき、フロントフォークの先にタイヤを設置した後， その上から外しておいたナットを時計回りに締め込みます。(図 3)

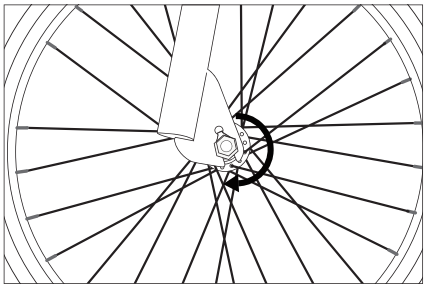
<図１>



<図２>



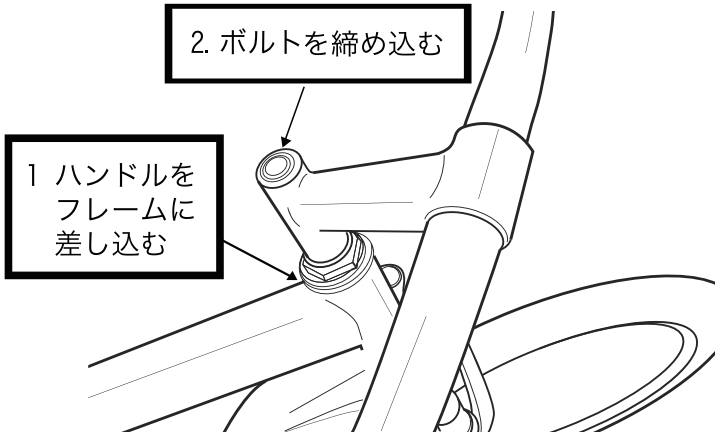
<図３>



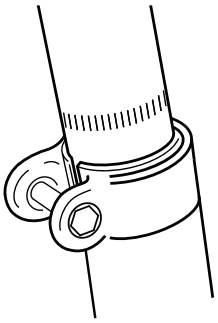
※前輪の取付に関しては簡易工具でも可能ですが、トルクレンチ等の専用工具の使用を推奨します。また一部車種にてハブボルトにアルマイト処理（表面のカラー加工）を採用したものがあり、これに関しては工具により表面の皮膜が剥がれる可能性がありますのでご注意ください。

3 ハンドルをフレームへ差し込み、固定してください。(ハンドルの高さを調整する際は、それぞれハンドルポストに刻まれた「はめ合わせ限界線」を超えないようにしてください 。) その後、ハンドルポスト上部のボルトを時計回しに回して固定してください。ハンドルを取り外すときは、逆の動作を行います。固定後はハンドルの取り付けがしっかりなされているかを再度確認後、乗車ください。(図 1)。

<図１>

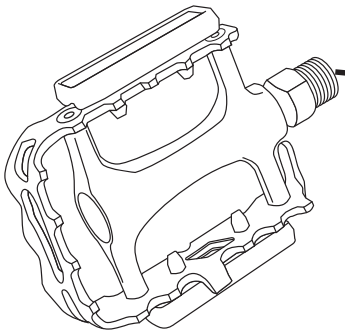


4 シートポストをフレームに差し込みます。このとき、必ず、シートポストにサドルが取り付けられた状態にて作業を行ってください。シートポストのみをフレームに差し込むとフレーム内へシートポストが脱落し、取出しが困難になる場合があります。また、サドルの高さを調整する際、必ずシートポストに刻まれたはめ合わせ限界線がフレームに隠れるように調整を行ってください。調整後は六角レンチにてしっかりボルトを締め付けて固定し、脱落やずれの危険が無いかを確認した上でご乗車ください。



5 ペダルを取り付けます。ペダルには左右の区別があります。まずはペダルの左右を確認してください。ペダル左右は、右の画像に示す位置に記されています。（右足側＝ R、左足側＝ L、を示す刻印があります）※ 車種によっては、すでにペダルが取り付けられている場合があります。

⚠ 注意



この場所にペダルの左右を示す刻印があります。（ねじ山先端部）

L　R

右足側のペダルは正ねじ（通常のねじと同じく時計回り）になりますが、左足側のペダルは走行中に脱落しないよう「**逆ネジ**（反時計回りにペダル軸を回転させて取り付ける）」になっており、通常ネジを締める方向（時計回り）とは逆になりますので、ご注意ください。左右ともにペダル軸ねじ山をクランクのねじ穴に合わせた後、右足側のペダルは時計回りに、左足側のペダルは反時計回りに回転させて取り付けます。まずは指先でペダルをねじ込み、その後に付属レンチを使用して確実にペダルをクランクに固定してください。このとき、ペダルを無理矢理クランクにねじ込まないでください。無理矢理ペダルをねじ込んで自転車を走行させると大変不安定になるほか、クランクのネジ山が削れてペダルが脱落してしまい、大変危険なうえ、クランクの修理も不可能になりますので、ご注意ください。ペダルの詳しい取付方法、また取り付け後の確認、注意事項に関しては取扱説明書 11 ページのペダル「ペダルの取り付けについて」をご確認ください。

6 これで自転車は完成ですが、もう一度各部に緩みやがたつきが無いか、部品はしっかりと取り付けられているかを確認した後、安全な乗車をお楽しみください。各部の点検・調整方法は別に添付する「取扱説明書」を参照してください。

※当説明書内容の無断転用を禁止します。
Copyright © 2010 BE-S CO.,LTD. All rights reserved.